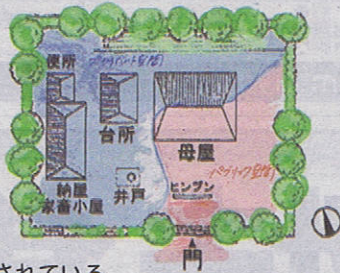




中城村にある中村家住宅。沖縄らしい風景の一部となっているシーサーも、風水に由来し、魔よけの意味がこめられている

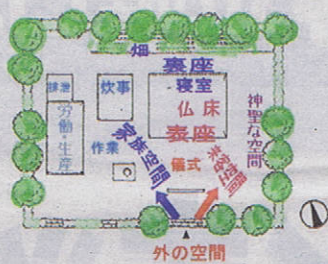
伝統的な
琉球民家



青で色づけされているプライベート空間は、北のつく方位（北西・北・北東）に配置された。日当たりが弱く、落ち着いて静かな方位であり、プライベート空間に適している

赤で色づけされたパブリック空間は、南のつく方位（南東・南・南西）に配置された。日光に恵まれ、明るく、にぎやかで活動的な方位であり、パブリック空間に適している

伝統的琉球民家の
間取りと機能



資料提供/和来龍

理想の地勢と方位
王朝時代は、国造り、集落の形成、家造りと、一つの風水理論を国単位から個人の住宅単位まで、入れ子構造で取り入れていました。そのため、個人宅においても、どの家もが風水的に良い立地で建てられていました。風水で理想とする地勢は、背後に山があり、前方は広く開けて水に面していること。方角的に

琉球民家の造り

自然と調和する琉球風水

琉球
アロマと風水で
すっきり
⑤

執筆/横川明子
(アロマ空間デザイナー・琉球風水スクール「アムリタ」主宰)

琉球風水の最大の特徴は自然との調和を大切にすること。そして、現実の暮らしに役立てながら、その空間に居る人が心地よいと感じることに意味があります。今回は、王朝時代の民家の造りから、琉球風水について解説します。

理想の地勢と方位

左右で公私を分ける

住宅の空間を分ける方法にも風水が活用されています。正面から入ってくる邪気や強風から住宅を守るためにヒンプンを置き、その左右に流れる動線を利用して空間を2つに分けました。

ヒンプンの右側は、男性とお客さまが入りする来客空間への動線です。母屋の前面であるパブリック空間を表座といい、東側（右側）から一番表座、二番表座、三番表座とし、それぞれ客間、仏間、居間として使われていました。

ヒンプンの左側は、女性や子どもたちが出入りする家族空間への動線です。このプライベート空間には、井戸やかまど、トイレなどがあり、母屋の奥は裏座と呼ばれ、寝室、子ども部屋

は、背後が北側、前面が南側を向くの良しとします。琉球民家も、これを基本としており、季節風の向き、太陽の方角、台風の影響など、沖縄独特の気象条件の中で、安全で心地よく暮らせることが配慮されていました。

や産室になつていました。このように当時の人々の生活様式に合わせて、住宅の間取りは機能的にできていたのです。

しかし、昔と今では住宅事情やライフスタイルも異なります。環境と調和するということは、その時代が持つ環境に当然左右されます。現代に琉球風水を生かすには、王朝時代の形をまねるのではなく、自然と調和する琉球風水の知恵を読み解き、そのエッセンスを活用します。次回からは、具体的な実践方法について、各部屋別に解説します。

(第4週に掲載)

よこかわ・あきこ / 東京都出身。マリンサファイア合同会社代表。アットアロマ社認定アロマ空間デザイナー。和来龍氏に師事し、琉球風水を学ぶ。講師のほか、琉球風水鑑定を行っている。
ホームページ <http://aromarine.jp>
ブログ <http://ameblo.jp/marine-sapphire/>

